

もくじ

①各部のなまえ
 本体と付属部品…………… 1

②安全上のご注意・使用上のお願い
 必ずお守りください…………… 3
 安全にお使いいただくために…… 4

③組立てかた
 ヘッドの取付けかた…………… 5
 電動ドリルの取付けかた…………… 6

④清掃のしかた
 操作方法／異物の取りかた…………… 8
 シャフトの入れかた／抜きかた… 9
 カメラで確認しながら作業する… 1 1

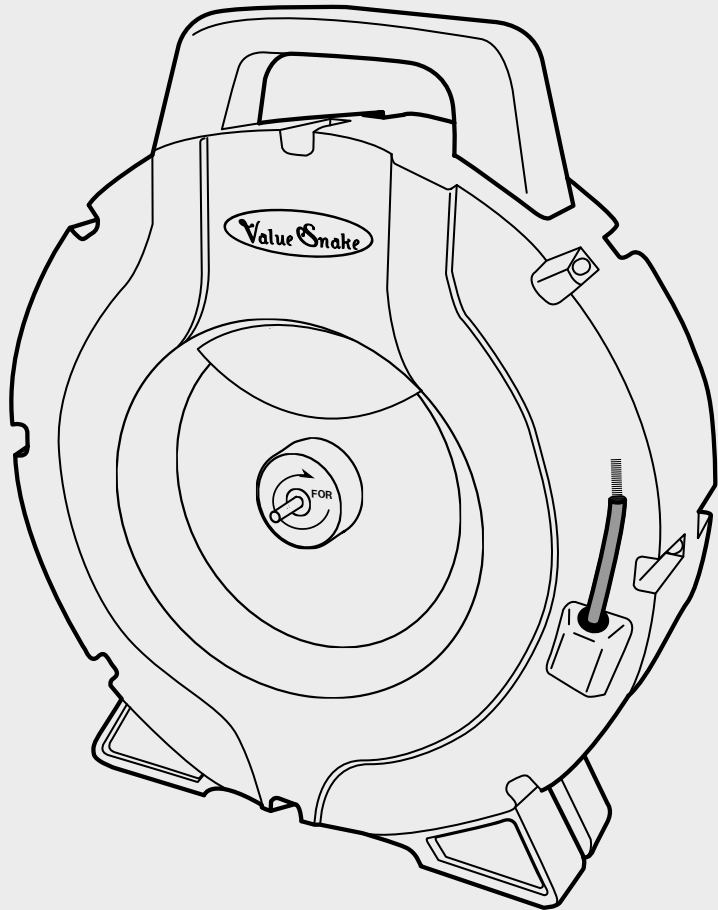
⑤お手入れ/運搬/廃棄
 長くお使いいただくために…………… 1 2

⑥お困りのとき
 修理を依頼されるまえに…………… 1 3
 修理と保証…………… 1 4

⑦免責事項
 免責事項および用途制限…………… 1 5

⑧製品の仕様
 本体性能とドリルの選定…………… 1 6

取扱説明書
 排水管清掃器
 バリキューン^{シックス}
 サイクロン6



このたびは本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございました。
 ご使用の前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき正しくご使用ください。
 お読みになったあとは大切に保管してください。
 製品の改良などにより、取扱説明書の内容は予告なく変更することがあります。

カンツールショップの
 会員登録をおすすめします

ご登録いただけますとさまざまな便利なサービスを
 24時間いつでもご利用いただけます。

<https://www.kantool-shop.jp/shop/>

●消耗品のご注文

●新製品情報

●お役立ち情報 ご登録はこちら→

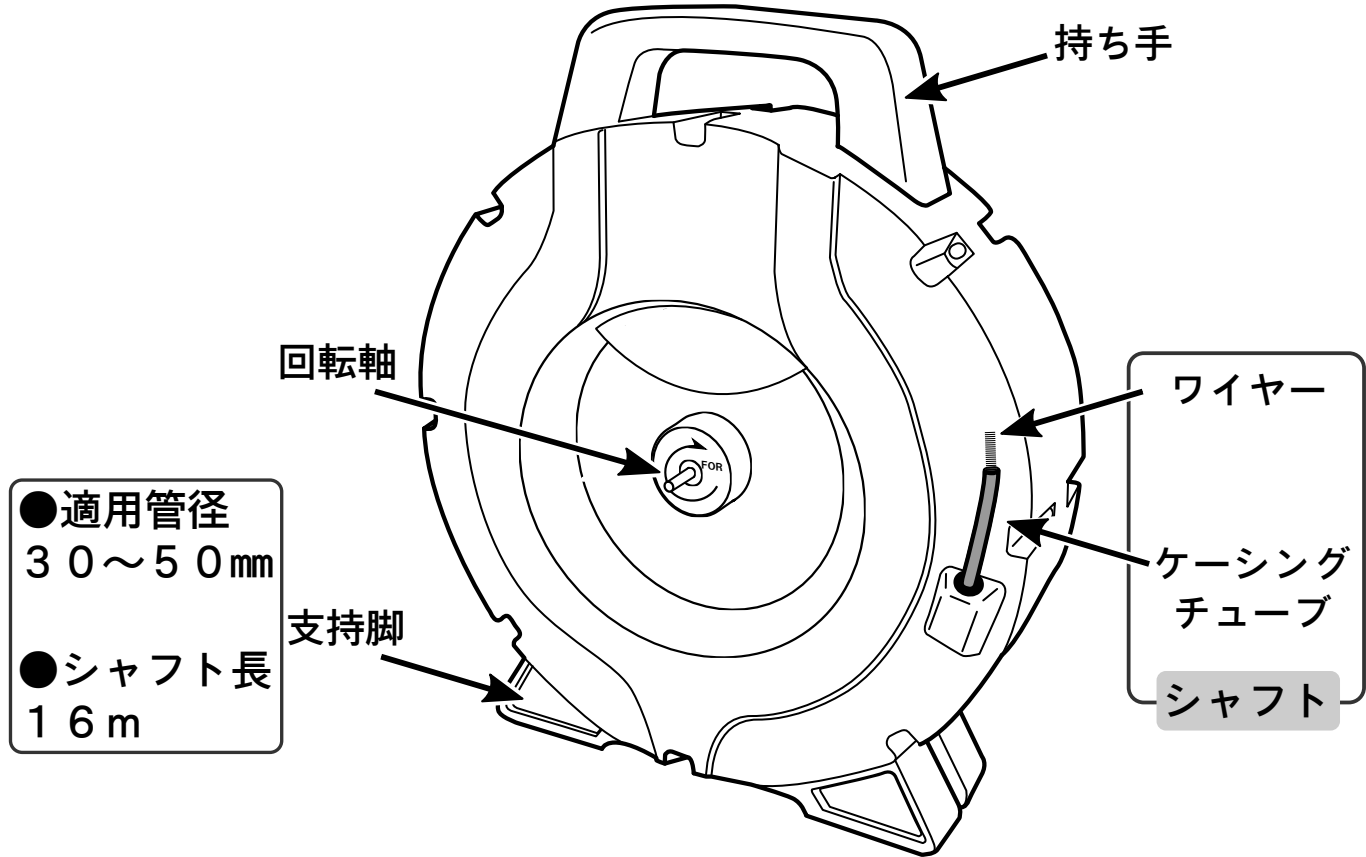


※ご利用の際には通信料が発生します。

各部のなまえ

本体と付属部品

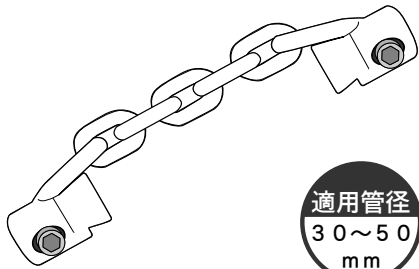
■本体



- 電動ドリルは別売りです。
お手持ちの電動ドリルをご使用ください(コード式ドリル、インパクトドライバーは使用しないでください)。

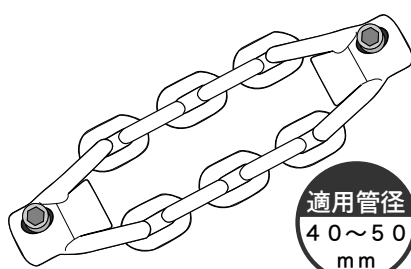
■標準付属部品

シングルチェーン50



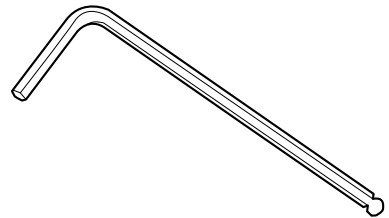
30mmから入れることができます。
管に与える衝撃が小さいため弱った
管に対しても使うことができます。

ダブルチェーン50



シングルチェーンよりも強い打撃力
を発揮し、堆積物を除去します。

六角レンチ(3mm)

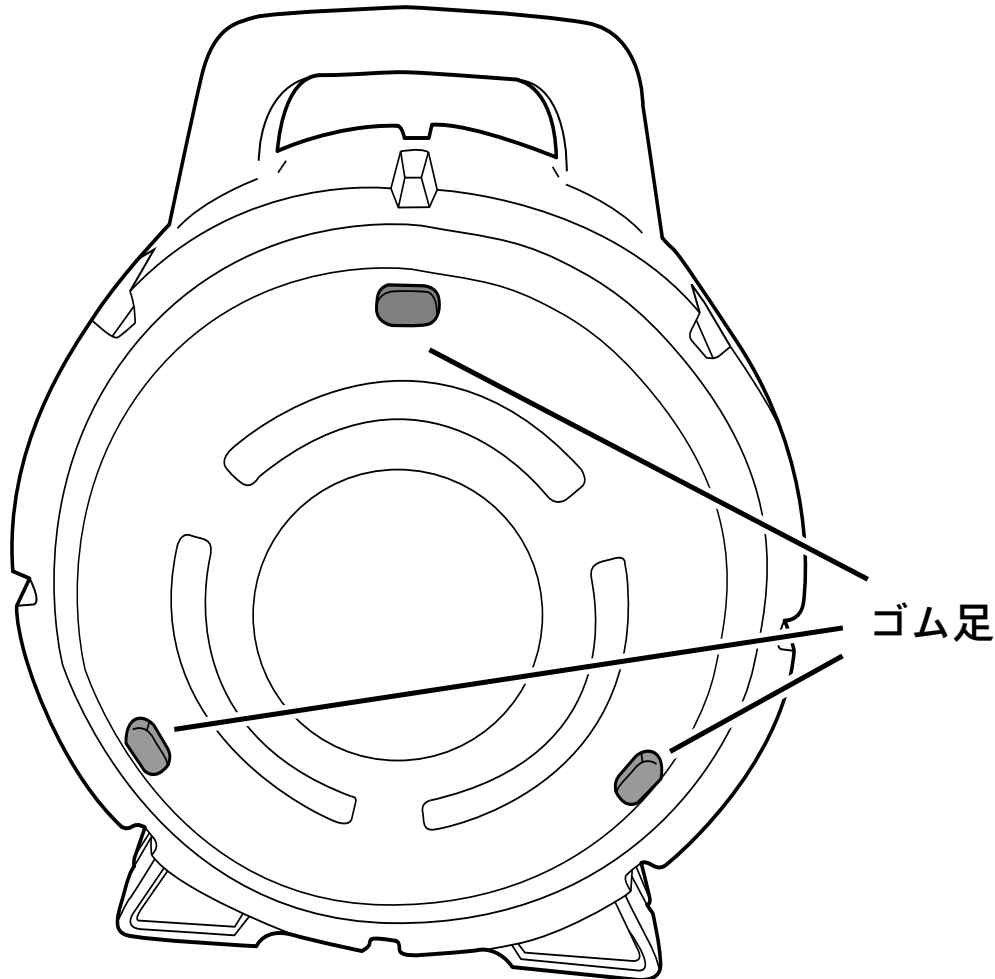


ヘッドのネジを回すために使用します。

各部のなまえ

本体と付属部品

■本体裏面



これらの部品は個別にお買い上げいただくこともできます。
カンツールにお問い合わせください。→裏表紙
インターネットでもお買い求めいただけます。
カンツールショップ→<https://www.kantool-shop.jp/shop/>





安全上のご注意


必ずお守りください


ご使用になる人や他の人への危害、設備への損害を未然に防ぐためお守りいただくことを次のように説明しています。また、本文中の注意事項についてもよくお読みになり、正しくお使いください。


●表示内容を見逃して誤った使い方をしたことにより生じる危害や損害の程度を以下の区分で表示し説明しています。表示内容を守らないことにより生じた危害や損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

 **警告** この表示欄は「死亡または重傷を負うことが想定される」内容です。

 **注意** この表示欄は「軽傷を負うことが想定されるか、物的損害が発生することが想定される」内容です。


 「警告」や「注意」を促す内容のものです。

 してはいけない「禁止」内容のものです。

 必ず実行していただく「指示」内容のものです。

警告

異常・故障時は直ちに使用を中止する

 ●ドリルを回してもワイヤーが回転しない
●ケーシングチューブが溶けている
●シャフトが出てこない、入らない
けがの恐れがあります
すぐに使用を中止し、弊社まで点検・修理を依頼してください。

●部品が破損している
●シャフトや本体が熱い
●回転軸が摩耗している

●ワイヤーがほどけている
●焦げ臭いにおいがする
●その他異常がある


本体


 ●本体は寝かせた状態で使用する

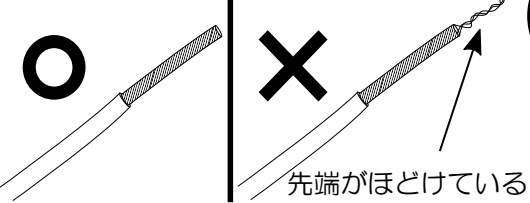
 ●不安定な場所に置かない
●本体の上に乗らない
●強い衝撃を与えない



シャフト・ヘッド

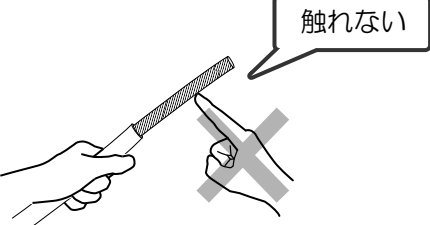
 ●ワイヤーやケーシングチューブに異常がないことを確認してから使用する

 ●回転中のワイヤーには触れない

 先端がほどけている


弊社まで点検・修理を依頼してください。

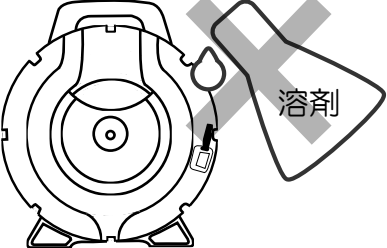
●ネジは確実に締めて使用する
ヘッドが外れてけがをするおそれがあります

 触れない

●人に向けない
●折って使用しない
●切断しない

その他

 ●排水管清掃以外の用途で使わない
●引火性のある場所や火気のある場所で使わない
●改造しない
●分解したり自分で修理をしない
●灯油、ガソリン、シンナー、ベンジンなどを付着させない
お手入れの際には水でふいてください(p.12)



安全上のご注意

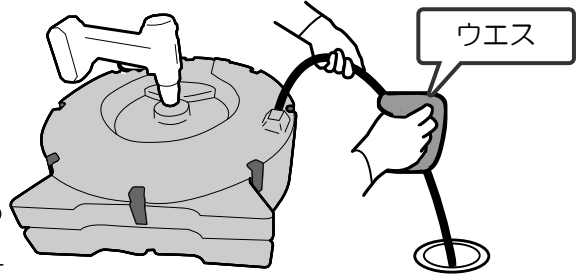
安全にお使いいただくために



本体



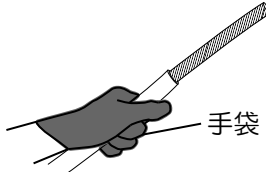
- 電動ドリルはインパクトドライバーを使用しない
ギアが破損し故障の原因となります
- バッテリー式のドリルを使用する
- 電動ドリルはチャックを確実に締めて回す
六角軸が破損し故障の原因となります
- シャフトを戻すときは、内部にゴミが入らないよう
ウエスなどでふき取る
内部に水やゴミが入り込むと故障の原因になります



シャフト・ヘッド

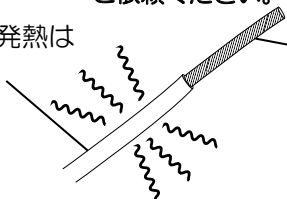


- 滑り止め付きの手袋を着用して作業する



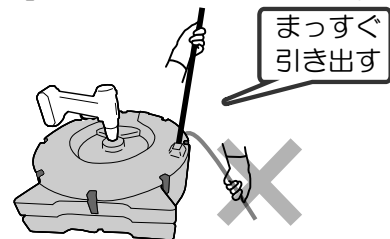
- 水や油でケーシングチューブが滑りやすくなる
ことがあるので注意する
- 運転直後のヘッドやワイヤーは、熱くなる
ことがあるので取扱いに注意する
- 運転によりネジが緩むことがあるので作業
のたびにネジを締めなおす(p.5)
運転中ヘッドが外れてけがをするおそれや
配管の中にヘッドを落とす危険があります
- ヘッドのネジの状態は常に確認する(p.5)
運転中ヘッドが外れてけがをするおそれや
配管の中にヘッドを落とす危険があります
- ケーシングチューブの発熱に注意する
シャフトが劣化するとチューブが発熱する
ようになります。そのまま使用を続けると
チューブが溶けるためすぐに点検・修理を
ご依頼ください。

チューブの発熱は異常です



ワイヤーの発熱は異常ではありません

- シャフトを左回転で回し続け
ない
左回転をし続けるとワイヤーが緩み破損
するおそれがあります。右回転を常用し
左回転は連続30秒以内で止めてください。
- シャフトが出てこなくなったら無理に
引っ張らない
シャフトの長さは1.6mです。それ以上
は出てきませんのでご注意ください
※ただし、少ししか出していないのにも
関わらずシャフトが出てこなくなった
場合は故障ですのですぐに点検・修理
をご依頼ください
- シャフトは本体からまっすぐ引き出す
シャフトを斜めに引き出すと本体のフチ
とケーシングチューブがこすれワイヤー
が露出してしまのおそれがあります

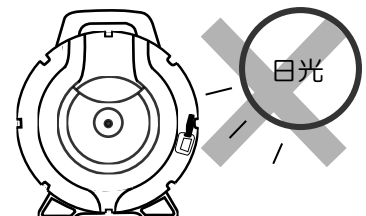


- 本体は管口の近い位置に設置する
本体や管の外に長くシャフトを出すと
シャフトがねじ切れることがあります
(p.8)

使用上のごお願い

故障などを防ぐために、次のことをお守りください。
また、本文中の(お願い)事項についてもよくお読みのうえ正しくお使いください。

- 保管、輸送時は持ち手で吊るさず、本体を立たせるか寝かせた状態で置く
落下して破損するおそれがあります
- 長期間保管する場合は日光を避ける
紫外線などにより部品が劣化し破損するおそれがあります
- 本製品に重い物を乗せない
部品が破損するおそれや、変形によって故障するおそれがあります

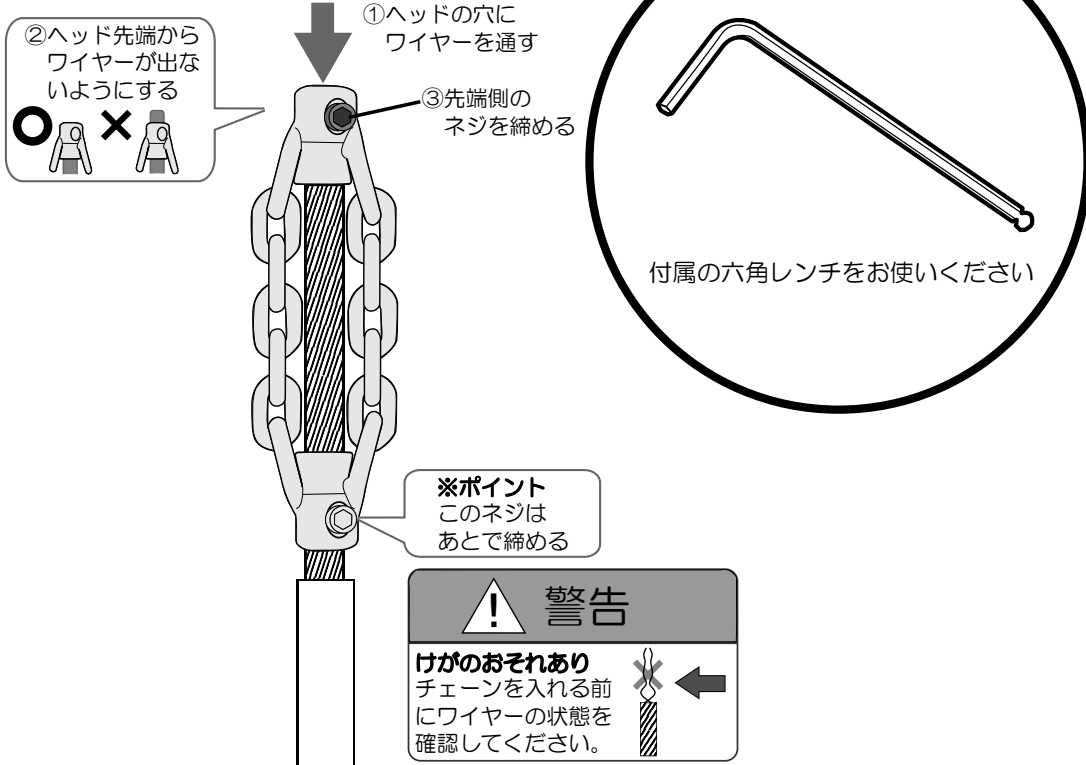


組立てかた

ヘッドの取付けかた

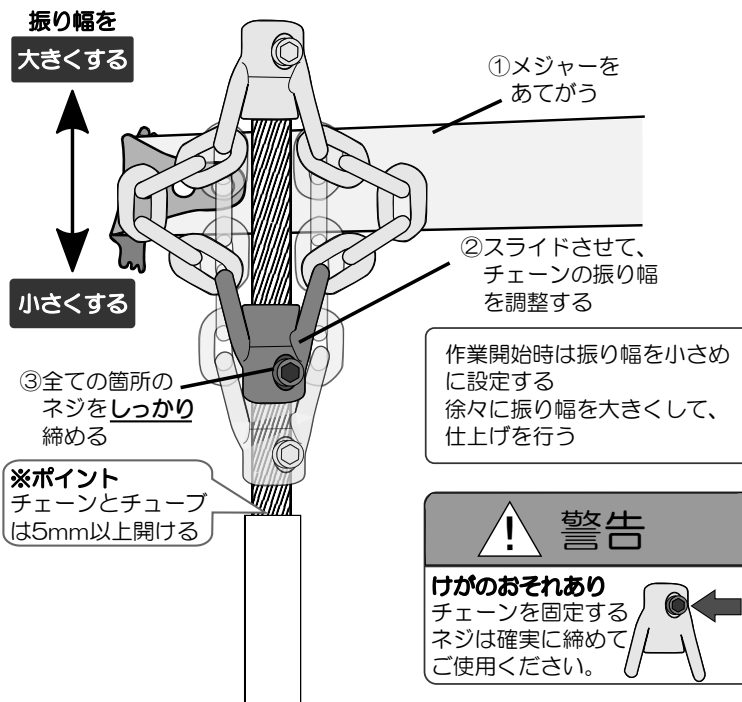
1

ヘッドを差し込む



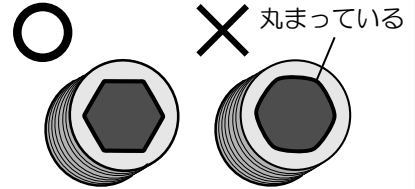
2

振り幅を調整する

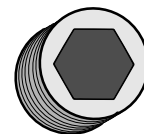


お願い

チェーンを固定するネジは山を潰さないように、慎重に回してください。万が一回せなくなった場合には修理となります。



また日ごろからネジが回しにくいと感じた場合にはお早めにネジを交換してください。交換用のネジは以下のものをご購入ください。



六角穴ネジM6×6

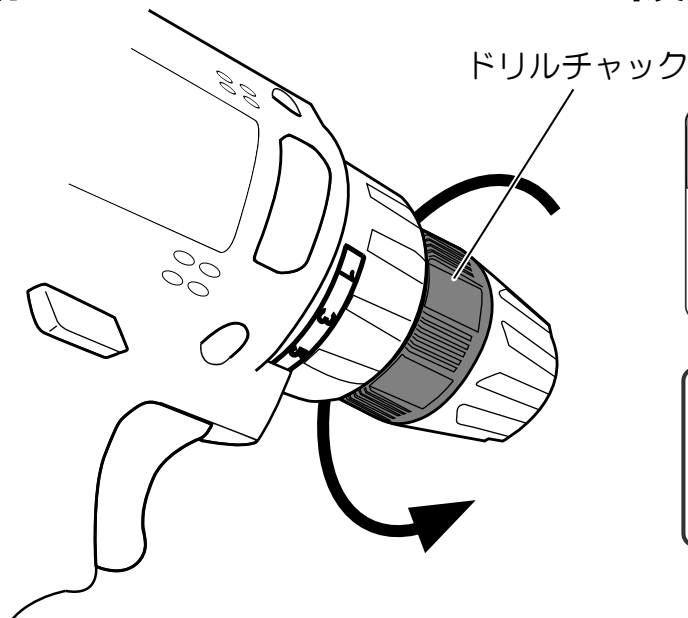


組立てかた

電動ドリルの取付けかた

※電動ドリルの操作方法は、お使いのドリルの取扱説明書をご覧ください。

1 電動ドリルのチャックを緩める



警告

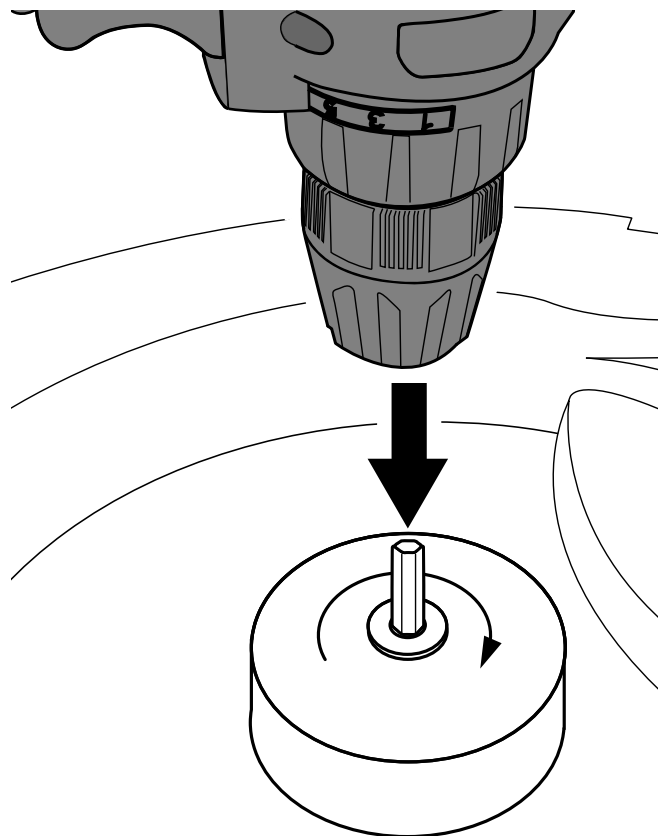
けがのおそれあり

電動ドリルの取付け作業の際は、誤って動かさないように電池を抜いてください。

お願い

締め付け力は最大もしくはネジ締めモードに回転速度は最高に設定してください。

2 電動ドリルを回転軸に差し込む



注意

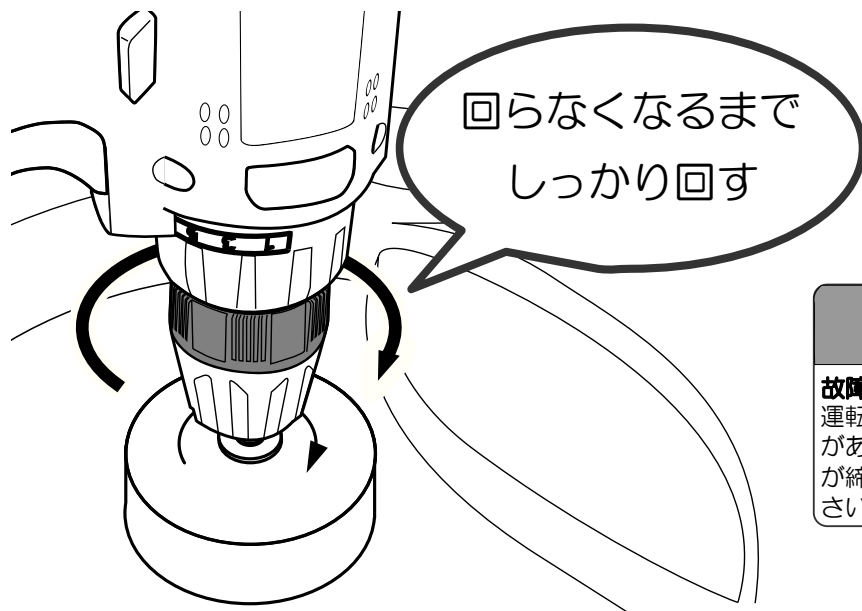
破損のおそれあり

電動ドリルが入らないときは、無理に押し込まずにチャックが開いているかご確認ください。

組立てかた

電動ドリルの取付けかた

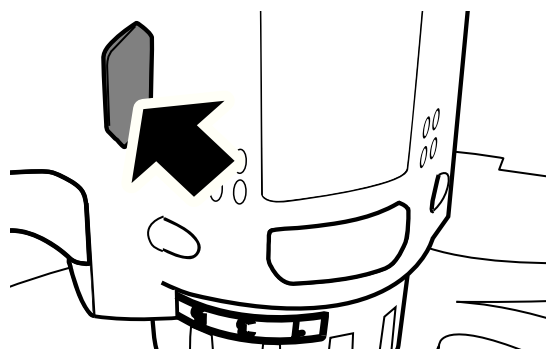
3 電動ドリルのチャックを締める



⚠ 注意

故障のおそれあり
運転するとチャックが緩むことがあります。定期的にチャックが締まっているか確認してください。

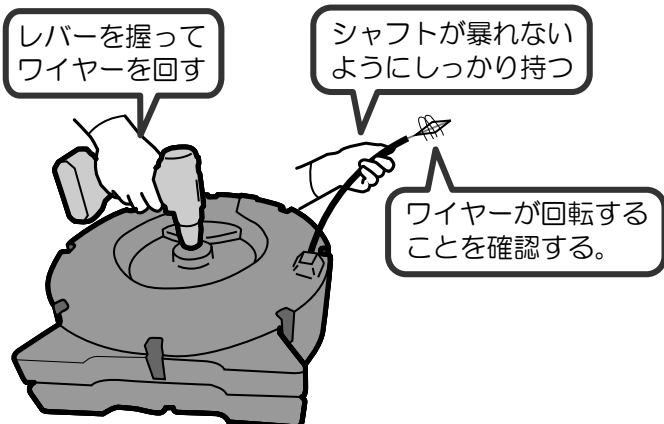
4 回転方向を右回しに設定する



お願い

ドリルは特別な事情がないかぎり、右回転(本体のラベルの矢印の方向)を常用してください。
左回転を続けるとワイヤーがほどけ破損することがあります。
詳しくはシャフトの入れかた(p.9)をご覧ください。

5 試運転する



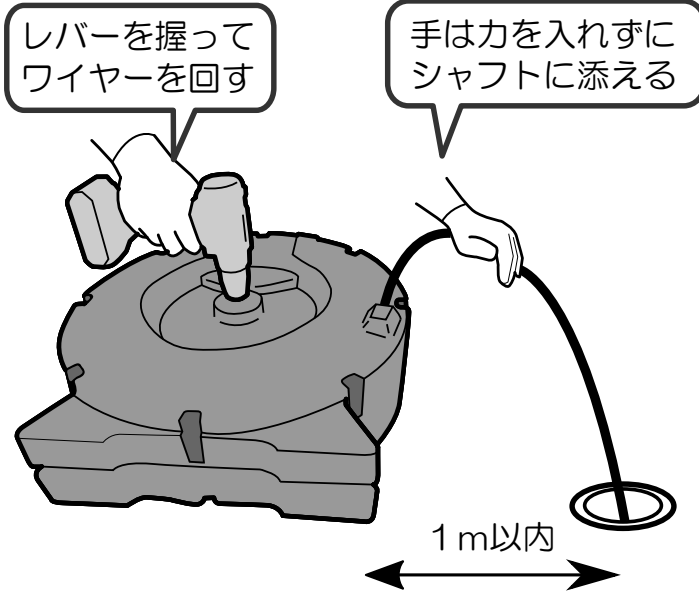
⚠ 警告

けがのおそれあり
シャフトから手を離れた状態でドリルを回すとシャフトが思わぬ動きをしてけがをすることがあります。

清掃のしかた

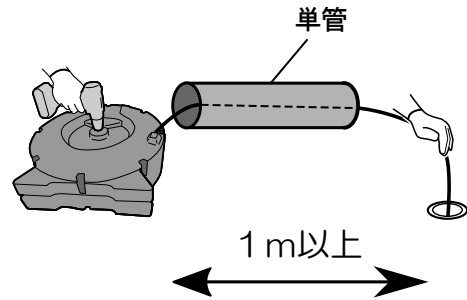
操作方法/異物の取りかた

■持ちかた



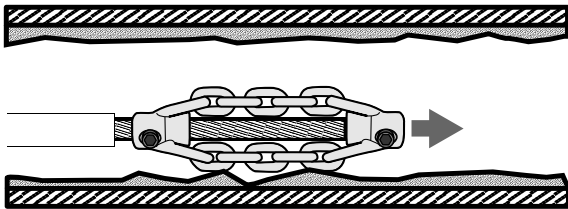
お願い

本体を管口から離して設置しなければならないときは必ず2人以上で操作し、ワイヤーが暴れないようにシャフトを単管などに通してご使用ください。



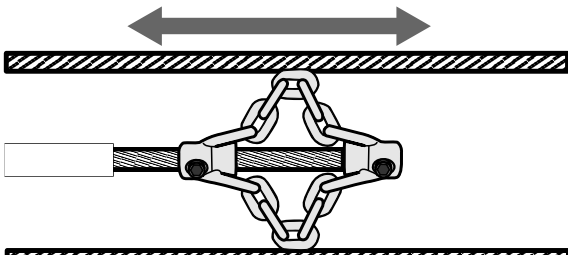
■異物の取りかた

1 ヘッドを回転させながらシャフトを入れる



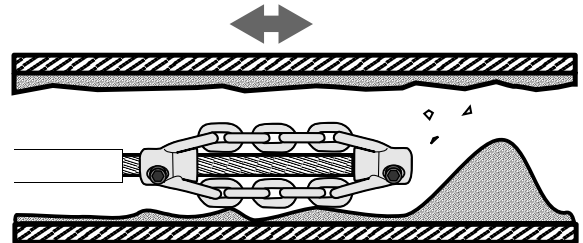
ヘッドを回しながらシャフトを入れます。シャフトの入れかたの詳細については、シャフトの入れかた(p.9)をご覧ください。

3 ヘッドの振り幅を大きくして表面を仕上げる



ヘッドの振り幅を大きくしシャフトを大きく前後に動かして管の表面を均一に仕上げてください。

2 感触が変化する位置でヘッドを往復させる



シャフトが押せなくなったり、ドリルの回転が落ちる箇所が異物の目印です。他の場所と回転の様子が変わりなくなるまで小刻みに出し入れを繰り返してください。

ヘッドが異物に急に噛みこむと、以下の現象が発生することがあるので注意してください。ドリルをゆっくり逆回転させると噛みこみが外れます。

- ドリルが急停止する、クラッチがはたらく
- ワイヤーがねじれる

⚠ 注意

破損のおそれあり

塩ビ管の場合には同じ場所で長時間ヘッドを回させないでください。管が破損するおそれがあります。

清掃のしかた

シャフトの入れかた

シャフトを動かすことで管内のヘッドの位置を調整します。

管の材質や状態によって使用方法が変わりますので下記の注意事項をよくお読みください。

塩ビ管

サビによる強度低下はありませんが、熱に弱い特性があります。
ヘッドを同じ箇所でもし続けると過熱し溶けるおそれがあります。
ヘッドは清掃中、常に前後に動かし続けてください。

鉄管

サビによって強度が低下していることがあります。
サビこぶが発生している箇所は管の厚みが著しく薄くなっている場合がありますので、カメラ等で十分に内部の状況を確認されてから作業されることをおすすめします。



警告

けがのおそれあり

●シャフトを無理に押し込まない

シャフトは力を加えずに入れてください。力をかけて押し込むと曲がりを入れられなくなったりヘッドが異物に当たったときに強く噛みこんでワイヤーが破損するおそれがあります。

●ドリルを急に最高速度で回さない

ドリルは少しずつ回転数を上げてください。急に高速回転させるとヘッドが何かに噛みこんだ際にワイヤーに対して強い衝撃が加わり破損するとともにけがのおそれがあります。はじめは必ず低速で回して、ワイヤーの回転に異常がないことを確認してから高速回転させてください。

●運転中はシャフトから手を離さない

回転しているシャフトは、急な力がかかったときに大きく動きます。手を離すと思わぬ動きをしてけがをするおそれがありますので運転中はシャフトから手を離さないでください。やむを得ず手を離さざるを得ないときはドリルの回転を止めてから手を離してください。またヘッドが噛みこんで急停止するときには運転音が変わる、シャフトが引かかるなどの予兆がある場合があります。運転中には機器の挙動に注意してください。

■曲がりの入れかた

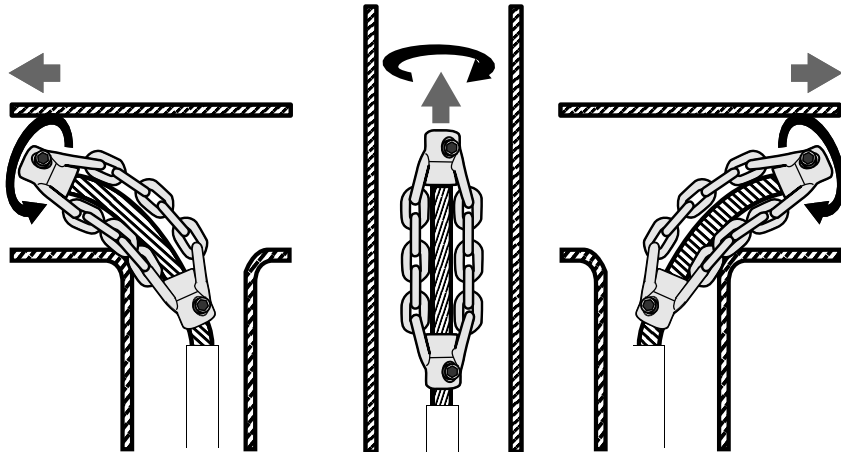
シャフトを曲げたい方向に合わせて、ドリルの回転を切替えます。左に曲げるときだけ左回転にします。

ただし入れたい方向にシャフトが入らないことがあるため、配管図面と挿入距離とに矛盾がないか確認しながら入れてください。

左に曲げる

直進

右に曲げる

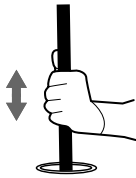


左回転

右回転

右回転

回転させながらシャフトを5cm程度出し入れして曲がりを通させます。



※ポイント

管口付近でシャフトを持ってください。

⚠ 注意

破損のおそれあり

左回転で回したあとは必ず右回転に設定しなおしてください。ワイヤーが破損するおそれがあります。

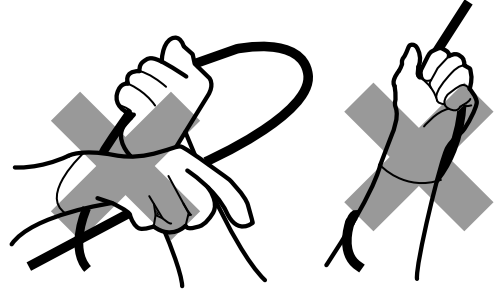
清掃のしかた

シャフトの入れかた



けがのおそれあり

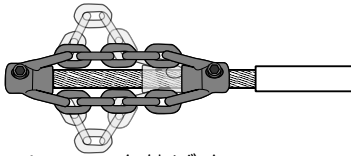
曲がりを通る際には、シャフトをひねらないでください。シャフトを無理な角度に曲げるとケーシングチューブが溶けてケガをするおそれがあります。また腕にシャフトを巻き付けたりするとシャフトの発熱によりやけどやけがをするおそれがあります。



入らないときは

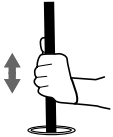
シャフトが入らないときは以下のような操作をお試しください。

①チェーンの振り幅を小さくします。



チェーンを伸ばす

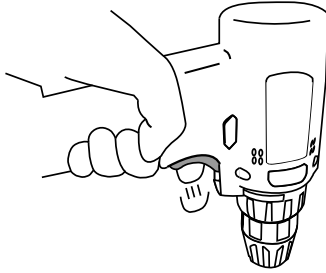
②回転させながらシャフトを5 cm程度出し入れします。



※ポイント

管口付近でシャフトを持ってください。

③ドリルを1秒に1回程度ONとOFFを交互に繰り返します。



シャフトが大きく動くので、シャフトやドリルをしっかり握ってください。

お願い

管内の異物に当たっていたり配管の構造によってシャフトが入らなくなることもあります。配管図面などをよく確認していただき、無理に押し込まないでください。

特に以下のような現象が出るときは慎重に挿入してください。

- ワイヤーが急停止する
- シャフトがねじれる

シャフトの抜きかた

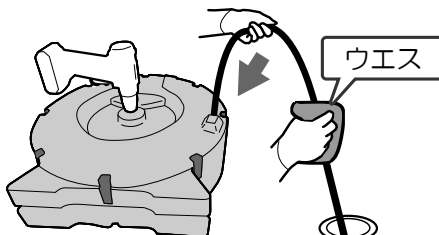
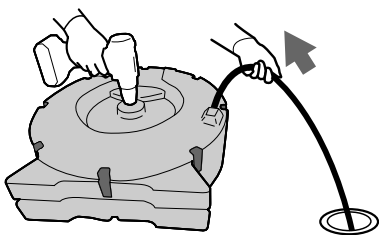
シャフトを抜くときは片手で電動ドリルを回転させ、もう一方の手でシャフトを50 cm程度管内から引っ張りあげてください。引き出したシャフトはウエス等で拭き上げて本体に入れてください。

①シャフトを引き抜きます。

電動ドリルを回転させながらシャフトを引き抜きます。シャフトを一度に多く出しすぎるとねじれるおそれがあるので、50 cmを目安に引いてください。

②シャフトを拭きながら収納します。

シャフトをウエスなどで拭きながら本体に収納します。収納する際に本体が動くことがあるので注意してください。



故障のおそれあり

シャフトを本体にしまうときは、シャフトを曲げないように注意して入れてください。

お願い

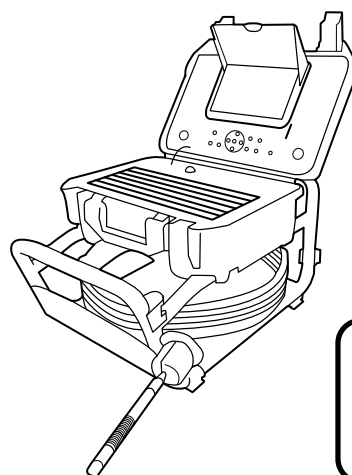
配管の形状によってはヘッドが引っかかることがあります。そのような場合は、シャフトを一旦押し込み、勢いよく引き抜いてください。

清掃のしかた

カメラで確認しながら作業する

■対応するカメラ

本製品は右のような押し込み式カメラで管内の状況を確認・撮影しながら作業することができます。
カメラと一緒に管内に挿入される際には以下の注意事項を必ずお守りください。
なおカメラの操作方法や注意事項についてはお手持ちの製品の取扱説明書をご確認ください。



バリウム・スコープPro

⚠ 注意

破損のおそれあり

一人で清掃機とカメラを操作せず
必ず複数人で作業をしてください。

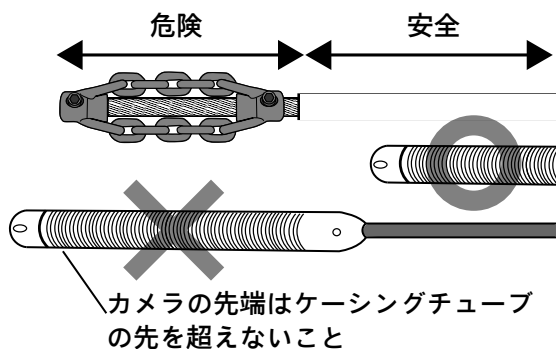
■カメラヘッドの位置

清掃機のシャフトは先端のみが回転するため、ヘッドの後方からカメラで作業中の管内を見ることができます。
回転しているワイヤーにカメラが接触すると破損するおそれがあります。作業中は下記の事項に注意してください。

⚠ 注意

破損のおそれあり

- カメラは必ずシャフトを入れたあとに入れる
- カメラはヘッドに当たらないように常に距離をとる
- シャフトを前後させる場合にはカメラをさらに後方に下げる
- 作業が終了しシャフトを管内から引き抜く際にはカメラを先に出す
- カメラが入らないときは無理に入れない



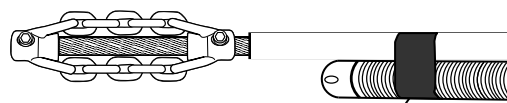
カメラの先端はケーシングチューブの先を超えないこと

■カメラヘッドの固定

ビニールテープでカメラをケーシングチューブに固定することができます。カメラを固定することで、ヘッドが急に下がってきてもカメラを破損させずに済みます。
ただし下記の事項に注意してください。

お願い

- カメラの操作は必ず清掃機と別の作業員が行って、清掃作業に専念してください。
- 作業中にテープが剥がれる可能性があるため、カメラケーブルは常に持ってください。
- カメラヘッドを固定していると、シャフトが曲がりを通しにくくなる場合があります。その場合にはカメラを外して別々に挿入してください。



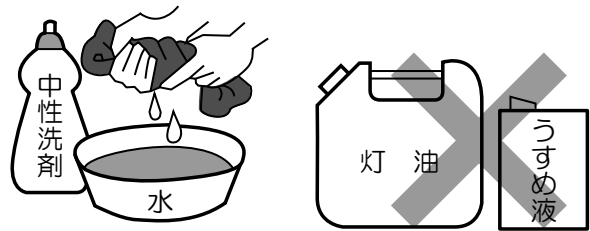
カメラヘッドをケーシングチューブにテープで固定する

お手入れ/運搬/廃棄

長くお使いいただくために

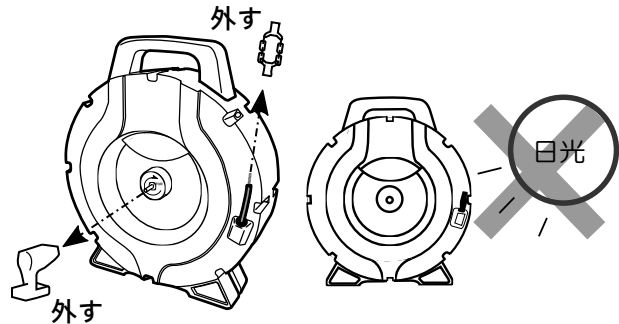
■お手入れ

- 乾いた布や柔らかいブラシで、汚れを落としてください。
- がっこな汚れには、台所用中性洗剤を薄めてご使用ください。
※塩素系洗剤、有機溶剤等は使用しないでください。
- たわしなどの硬いものでこすらないでください。



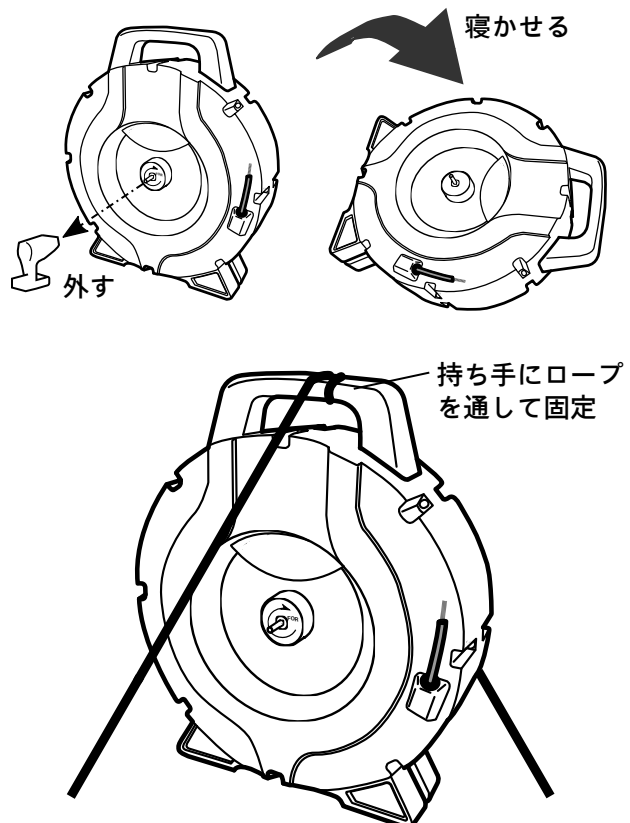
■保管

- ヘッドやドリルは取外して保管してください。
ヘッドを長時間外さずに置いていると、シャフトに固着して外れなくなるおそれがあります。
ドリルも長時間接続したままにしておくと、回転軸が変形し故障するおそれがあります。
- 持ち手で吊るさないでください。落下して破損するおそれがあります。
- 日光の当たらない涼しい場所で保管してください。
紫外線により本体の樹脂が劣化したり、熱で変形するおそれがあります。



■運搬

- ドリルは取外して運搬してください。
ドリルを取付けたままだと運搬中の衝撃で回転軸が破損するおそれがあります。
- 安定した場所で寝かせた状態で置いてください。
本体を立てた状態で運搬すると倒れて本体が破損するおそれがあります。
また、物の上に乗せると滑り落ちるなどして本体が破損するおそれがあります。
- 本体の上に物を乗せないでください。本体や部品が破損するおそれがあります。
- 置き場の都合により立てて運搬しなければならない場合は、持ち手を使いロープなどで縛って固定してください。
- 持ち手で吊るさないでください。落下して破損したり、揺れたときに周囲にキズをつけるおそれがあります。
- 高温の車内やトランクルームに放置しないでください。
熱で本体や部品が変形し、破損するおそれがあります。



■廃棄

- 本体およびヘッドを廃棄するときは、自治体のルールに従ってください。
- 電動ドリルについてはお手持ちのドリルの説明書の指示に従ってください。

お困りのとき

修理を依頼されるまえに

●修理のまえに次の点をもう一度ご確認ください。

症状	確認するところ	直しかた	ページ
ワイヤーが回転しない	電動ドリルは回転していますか	ご使用の電動ドリルの取扱説明書をご確認ください	—
	電動ドリルのチャックは締まっていますか		
	電動ドリルを逆回転できますか	ドリルを数回逆回転してください	p.8
ヘッドが固定できない	ヘッドのネジが潰れていませんか	ネジを交換してください	p.5
	ヘッドのネジ穴にゴミが詰まっていますか	ネジ穴をつまようじなどで清掃してください	
ワイヤーの回転が運転中に止まる	ヘッドの振り幅が大きすぎませんか	ヘッドの振り幅を小さくしてください	p.5
	シャフトが押し込めなくなっていますか	シャフトを少し引いて作業を再開してください	p.10
	電動ドリルを強く回していませんか	電動ドリルをゆっくり回してください	p.9
	電動ドリルの締め付け力を最大以外に設定していませんか	締め付け力を最大にするかネジ締めモードに設定してください	p.6
シャフトが出てこない	シャフトを16m以上出していないですか	清掃できる範囲の限界ですので別の方法をご検討ください	—
異物が除去できない	●適用管径内ですか ●清掃方法を変えても取れませんか	清掃方法の変更をご検討ください(弊社では研修会も行っております)	p.8
シャフトを出し入れすると電動ドリルも回る	異常ではありません。シャフトとドリルが連結しているためです。		—
ヘッドやワイヤーが発熱している	異常ではありませんが、ヤケドのおそれがあるため取扱いにご注意ください。ケーシングチューブの発熱は異常ですので修理をご相談ください。		p.4

これらを試しても問題が解決されない場合は、ご自身で修理なさらず「保証と修理」(p.14)をよくお読みになり修理をご依頼ください。

お困りのとき

修理と保証

修理を依頼されるときは

「お困りのとき」(p.13)に従いお手持ちの製品の状態を調べていただき症状が改善しないときは、ご使用を中止して販売店までご連絡ください。

- 修理のため製品をお預けいただく際は全ての付属部品も一緒にお渡しください。

お伝えいただきたい内容

1. 製品名「バリューサイクロン6(シックス)」
2. 不具合の内容(できる限り詳細に)

修理交換部品について

- 電動ドリルの故障は弊社での修理はいたしかねます。お手数ですがお手持ちの電動ドリルの販売店まで修理をご依頼ください。
- 交換部品は製品の改良などのため、お買い上げいただいたものと仕様変更される場合があります。
- 修理のために取り外した部品はお申し出がなければ、弊社にて引き取り、廃棄いたします。

保証

保証期間：お買い上げ日より 1年間

修理の際にお買い上げ日を証明できる書類(納品書等)をご提示いただければ保証を適用いたします。

ただし以下に該当する場合は保証を適用いたしません。

- お買い上げ日がわかる証明書のご提示がない場合
- 保証期間を過ぎている場合(有償修理は可能です)
- 電動ドリルや、電動ドリルに起因する故障の場合
- シャフトやヘッドなどの消耗部品、通常の使用による部品等の損耗
- 本書の指示に従わなかったことによる損害
- 目的外の使用による損害
- 弊社修理員以外による修理を行った場合
- 弊社が指定していない部品を取付けて使用した場合
- 改造を行った場合
- 災害等の不可抗力に起因する損害

修理の流れ

ご使用の際このような症状はありませんか？

- ドリルを回してもワイヤーが回転しない
- ワイヤーがほどけている
- 本体やケーシングチューブが異常に熱い
- ケーシングチューブが溶けている
- シャフトが出てこない、入らない
- 焦げ臭いにおいがする
- その他異常がある

ただちに
使用中止

事故防止のため、
すぐに作業をやめ
下記の連絡先まで
修理・点検を依頼
してください。

修理の
ご相談窓口

TEL :  0120-812-432

FAX : 047-369-1161

受付時間 8:30~17:30[平日のみ]

携帯電話をご利用の方は最寄りの営業所(裏表紙参照)におかけください

修理品の
お預かり

担当者が製品をお預かりいたします。
付属品も全てお預けください(郵送も可)。

お見積り
提出

修理

修理品
ご返却
お支払

免責事項

免責事項および用途制限

■免責事項

- 地震、火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意、過失、誤用およびその他の異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、弊社は一切の責任を負いません。
- 本製品の使用または使用不能から生じる付随的な損害(事業利益の損失・事業の中断など)事故(人命に関わる事故、火災、環境汚染等)に関して、弊社は一切の責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、弊社は一切の責任を負いません。
- 弊社が関与しない接続機器との組み合わせによる誤動作等から生じた損害に関して、弊社は一切責任を負いません。
- お客様ご自身又は権限のない第三者(指定外のサービス店等)が修理・改造を行った場合に生じた損害に関して、弊社は一切責任を負いません。
- 製品に関し、いかなる場合も弊社の費用負担は本製品のメーカー希望小売価格以内とします。
- 製品の取扱説明書に記載のない項目については、保証対象外とします。

■用途制限

- 次に示すような条件や環境で使用する場合は安全対策へのご配慮を頂くとともに弊社にご連絡くださるようお願いいたします。
 1. 取扱説明書に明記されている条件以外での使用。
 2. 人や財産に大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途への使用。なお本製品による人的、物的な損害の責任を弊社は一切負いかねます。
- 本製品は排水管内の清掃を使用目的としています。これと異なる目的に使用する場合は、お客様が必要に応じてテストを行い十分に確認してから使用してください。
- 本製品を人の生命に直接かかわる装置(※1)等を含むシステムに使用しないでください。
 - ※1：人の生命に直接かかわる装置等とは、次のものを指します。
 - ・生命維持装置や手術室用機器などの医療用機器
 - ・有毒ガスなど気体の排出装置および排煙装置
 - ・消防法、建築基準法などの各種法令を遵守して設置することが義務付けられている装置
- 本製品を人の安全に関与し、公共の機能維持に重大な影響を及ぼす装置等を含むシステム(※2)に使用される場合はシステムに影響を及ぼさない措置を講じ、使用上の注意の遵守徹底をお願いします。これらを怠って発生した人身事故、火災事故、社会的な損害等において弊社ではいかなる責任も負いかねます。
 - ※2：公共交通機関、発電所、通信施設、病院など

製品の仕様

本体性能とドリルの選定

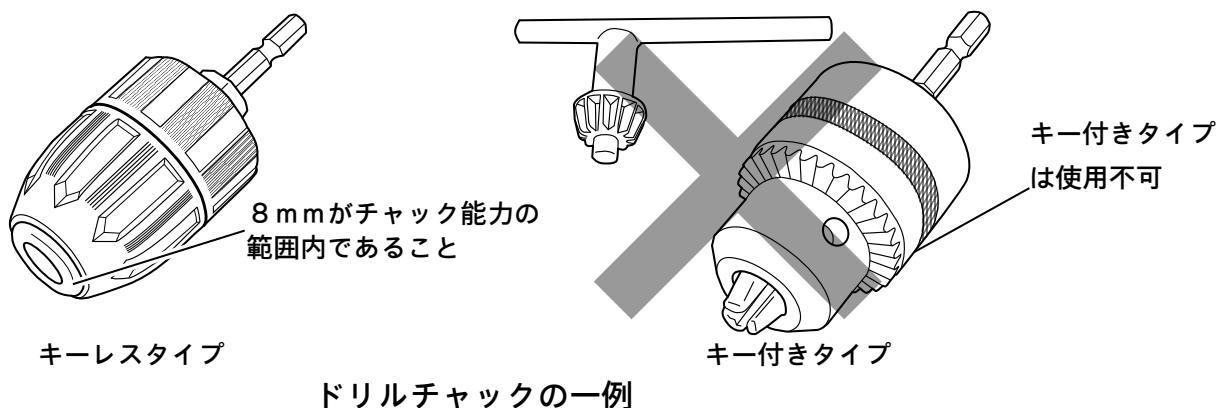
■本体性能

型 式	VD-506
適 用 管 径	30~50mm
本 体 重 量	9.6kg (電動ドリルを含まない)
本 体 寸 法	幅486mm×奥行174mm×高さ569mm
シャフト長	1.6m (有効長1.57m)
シャフト径	6mm
動 力	電動ドリル

■ドリルの必要性能

動 力 源	電動(バッテリー式に限る)
最 高 回 転 数	1000~2000rpm
締め付けトルク	40N・m以上
そ の 他	チャック能力が8mmに対応していること (キーレスタイプに限る)

※コード式ドリル、インパクトドライバーは不可



MEMO

MEMO

事業所一覧

ホームページ：<https://kantool.co.jp/>
メールアドレス：info-kantool@kantool.co.jp
カンツールショップ：<https://www.kantool-shop.jp/shop/>

フリーダイヤル 0120-812-432

●本社

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町1-3
ヨシヤ日本橋ビル8階
TEL：03-3962-3240
FAX：03-5962-3241

●松戸テクニカルセンター

〒271-0065
千葉県松戸市南花島向町315-5
TEL：047-308-2271
FAX：047-369-1161

●東京営業所

〒271-0065
千葉県松戸市南花島向町315-5
TEL：047-308-3633
FAX：047-369-3634

●仙台オフィス

〒984-0831
宮城県仙台市若林区沖野6-26-26
七ツ星ハイツ106号室
TEL：022-290-5262
FAX：022-290-5263

●北海道営業所

〒004-0031
北海道札幌市厚別区上野幌一条4-1-3
TEL：011-801-8881
FAX：011-896-8885

●名古屋営業所

〒452-0822
愛知県名古屋市西区中小田井2-486
TEL：052-504-2321
FAX：052-504-3614

●大阪営業所

〒536-0007
大阪府大阪市城東区成育1-6-26
TEL：06-7711-3470
FAX：06-7711-3474

●九州営業所

〒812-0016
福岡県福岡市城南区堤1-32-20
オフィスパレア堤I・3号室
TEL：092-407-2433
FAX：092-407-2434